

JAL2016 アンサー・シンポジウム参加者によるアンケート調査結果報告

1. アンケート調査方法

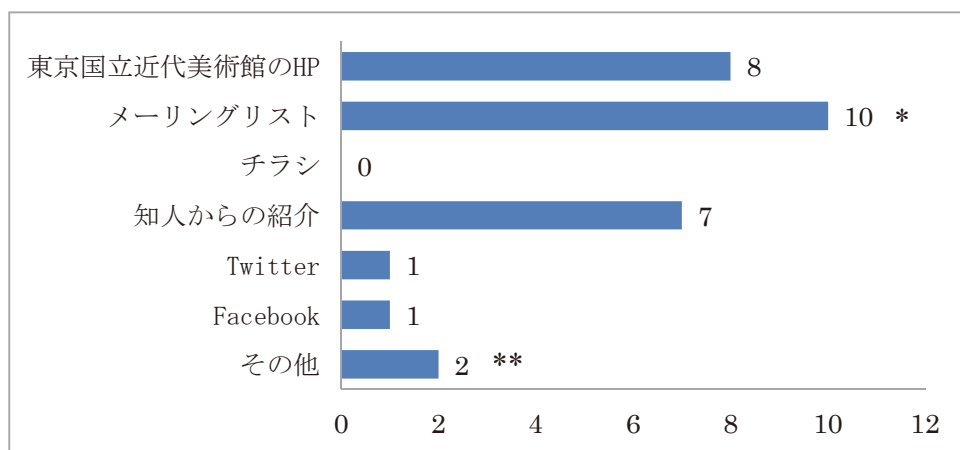
日時：2017年2月3日（金）14：00～17：00

場所：東京国立近代美術館講堂

アンケート総数：21件

2. アンケート詳細

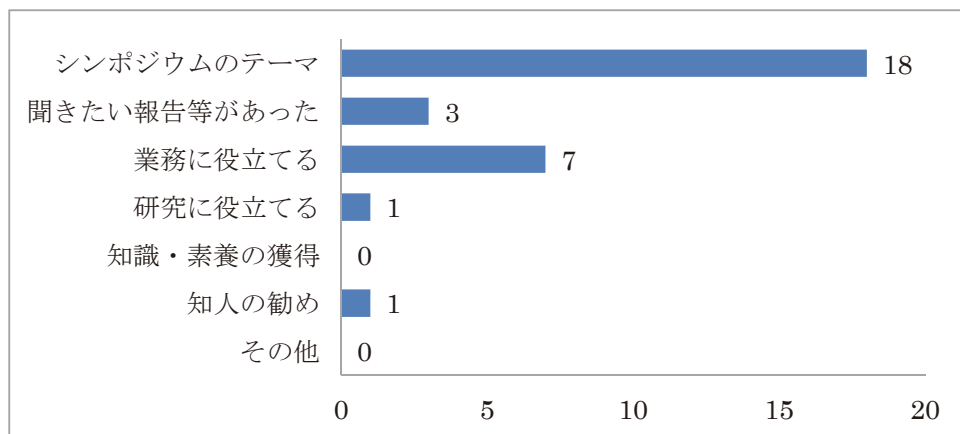
1) JAL2016 アンサー・シンポジウムについて情報の入手先



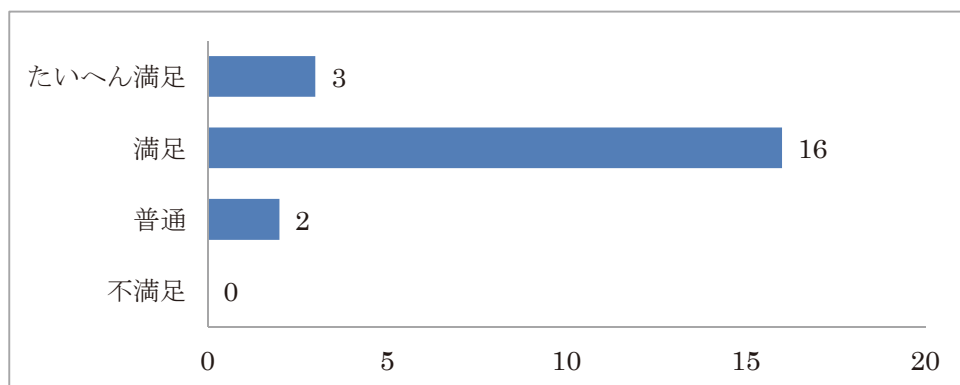
* メーリングリスト：JADS-ML、MUSE-Lib

** 職場情報

2) 参加の目的



3) 満足度



4) 興味・関心のあった報告

■前から興味があったデジタル・ヒューマニティーズの話が聞けて良かったと思います。

■組織として日本研究を支援するための方策を検討する部署に3年ほどおりますが、当館に寄せられる大きな要望対応はなかなかご期待に添えず、またもや感にさいなまれておりました。ちょうど、機関を超えた検討グループのようなものができたらよいと思っていたところに同じ考えをお持ちの方がいらっしゃることが分かり心強く思いました。

■渋沢栄一記念財団情報資源センターの取り組み。東京文化財研究所の日本美術に関わる立場。テクニカル的な面からの永崎さんの発言。

■改めて人的ネットワークの重要性を感じました。

■総合ポータル（スタンダード版）の作成と更新を行うことの実現性について。

5) JAL へのご意見・ご感想

■12月9日で終わるのではなく、今回のアンサー・シンポジウムを開いたことに、とても驚きもあり、かつ、とても有益な情報を発壇者から得ることができました。

■なかなか実現できないプロジェクトだったと思います。これを機に人的ネットワークがつながり、発展していくと思っています。

■自由討議にて具体的な議論として、「情報（研究成果）に対する研究者・ライブラリアンの意識」や「提言をライブラリアンの発信としていかに受け、回答するか」などの問題を聞くことができた。
(議論の時間がなかったのが残念)

■大規模な機関はデジタル化も進みやすいのだと思いますが、小規模機関にとっては、とても遠い道のりだと思いました。小規模機関のデジタルアーカイブ化についてはどのようにお考えでしょうか？

■今後どう事業を推進させていくか広く周知しながら進めてほしい。

6) 今後の事業提案・意見

■海外にいる日本研究者だけでなく、日本にいる外国人の方が日本研究をする際にお困りの点があるか、など考えると英語化・海外発信のヒントが転がっているのではないのでしょうか。

■学芸や大学研究者やアートドキュメンテーション学会等で Version 2 を計画してはと思う。

■美術情報のリンク集につきましては、NDLのリサーチ・ナビ「日本の美術について調べるには」というコンテンツがあり、当館の日本研究支援の組織で英訳公開しています。リサーチ・ナビは当館のレファレンス担当司書が日々受け取る質問に回答するためによく使う HP のリンク集ですので、美術館の方が作ろうとされている部分と重なるところがあると思います。最終的なサービスの提供相手は同じですので、協力・アドバイスをいただけるようになるとよいと思いました。パスファインダー的情報も掲載できると思います。

■海外利用者が多く、日本滞在時に沢山コピーをしていく。帰国前に遠隔複写の要望を受けるが、現状対応していないためできない。海外からの日本美術研究者のために対応できる現場になれば良いなと感じている。

■日本（美術）情報に関するナビゲーション（リンク集以上のもの）を共同で作成するしくみを作る。JAL のプロジェクトの研修先の他、主な機関作成のものを取得し、解説・使い方・特徴などの説明をつける。

■日本の美術研究者、文学もしくは日本文化研究者、図書館員を海外へ送り出すようなプロジェクトができるといいかなと思います。お金（資金力）のある大学は有料の日本語データベースを契約しており、教育・研究に活用しています。資金力のない研究機関へのサポートが何かできるといいと思います。アンサー・シンポジウム面白かったです。続くといいですね。

■国立の大きい（お金のある）機関ばかりでなく、もっといろんな規模の機関を巻き込むべきでは？